



外国出張報告書

平成 26 年 5 月 19 日

1. 出張国名 ラオス
2. 出張月 平成 26 年 3 月
3. 出張目的 在来大型魚の資源生態調査、生簀・池養殖実験モニタリング、次年度養魚試験の適地選定（水田、池）：C

4. 成果の概要

2013 年に実施した村域での養魚水田での土壌分析を実施した結果、有効態リン含有量と、コメ生産性に正の相関が認められた。土壌中リン量の養魚生産・コメ生産に対する影響評価のための新規実験を行うこととし、同実験のデザイン案を協議した。プロジェクト対象村における最も重要な商業漁業対象種であるライギョの資源生態調査を進め、年齢解析および暫定的成長モデルを構築した。養魚用餌料のタンパク質原料としての利用を検討しているミズアブの成分分析が終了し、同種幼虫が有効な養魚飼料であることが裏付けられた。ナムアン村での池養殖・網生簀養殖の成長測定を行った。ナムアン村での水田・池養魚試験候補地の選定を行った。